

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

素直な心になること 津賀 一宏 (パナソニック社長)

1. 津賀一宏社長が最近よく口にするのが「素直な心」「生成発展」「衆知を集める」の3つだ。いずれも創業者・松下幸之助著「実践経営哲学」に出てくる言葉である。そのうち「素直な心」は「実践経営哲学」で、「自分の利害とか感情、知識や先入観などにとらわれずに、物事をありのままに見ようとする心」と定義されている。「とらわれた心で判断を間違えて、行動を誤ったことになる」と書いてある。「経営というのは、天地自然の理に従い、世間、大衆の声を聞き、社内の衆知を集めて、なすべきことを行っていけば、必ず成功するものである」とまで松下幸之助は断言している。
2. 津賀社長は、6月下旬に売上高10兆円の旗を早々に降ろした経緯について、次のように語っている。「10兆円という目標を掲げると、多くの社員に、『数字がすべてではないでしょう。本当に目指す姿は何ですか』と言われた。やはり目指すのは『お客様へのお役立ち』(創業者の言葉)。それが先細っていくのではなく一過性のものでもなく継続して『お役立ち』をするためには事業の領域も変えていく必要がある。そういう岐路に来ている。世の中も顧客の志向も変わる中で『し続ける』ことは難しいが、それに挑戦していく」
3. 「素直な心」で「衆知を集め」、「万物が生成発展する」中であって「一商人としてどうなのか」と考え、10兆円の旗を降ろした、というのが真相なのだという。(参考:「週刊東洋経済」2016年7月30日号)

幹部への活きた言葉

50代の苦しみ・悩み

1. 「ゆでガエル世代」。日経ビジネスは、今の50代をこう命名する。50代の読者にとっては、不愉快な話だろう。しかし、現状を冷静に分析すれば、そう指摘せざるを得ない。50代を「思想」と「仕事」に分けると次のように分析できる。
2. (1) 思想…①生まれた時から平和と経済成長が当たり前。自分の目標を持たなくとも、成長に乗れた時代。②イデオロギーが崩壊し「楽しいこと」が価値。田中康夫氏の「何となく、クリスタル」の世界観を共有。
- (2) 仕事…①大学進学率の上昇とバブル直前の好景気で売り手市場。仕事も「楽しくなければ意味がない」と考える。②入社後数年でバブル景気。バブル崩壊で長期低迷に陥るも楽観主義で現実を直視せず。

(参考:「日経ビジネス」:2016年8月15日号)

街の活性化策

空き家で移住者を図る

1. 急増する空き家を積極的に活用しようという自治体もある。空き家の実態を把握し売買や賃貸などでの活用を促進、県外からの定住者の増加を図る。空き家を逆手に取った自治体の活性化である。都道府県では、和歌山県の評価が高い。移住者向けに東京都、大阪市と和歌山市に相談窓口を設置。さらに県内の市町村には、移住希望者の生活相談、起業支援まで「ワンストップ相談窓口」を設けている。
2. 他には、空き家に住む移住者に、自治体がハローワークと連携して仕事を紹介する島根県江津市の例もある。空き家は定住人口を増やしたり、地域活性化のツールとして活用されているわけだ。住まいはまさに人や地域の営みの中でこそ意味を持つ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2016年8月13・20日号)

古典に学ぶ

母親の泣く子への言葉

(解説) 剛勇、不屈、大胆、豪胆、勇気は青少年の心にきわめて容易に訴えかけ、鍛錬と模範で訓練できる魂の性質であるから、青少年の間で早いころから見習わせた最もら人気のある徳であった。戦さの手柄の物語は、少年たちがまだ、母のふところを離れないうちに、くりかえし語られた。ちびっ子がどこか痛くて泣くと、母親は子を叱ってこう言うのである。「ちょっとぐらいで泣くなんて、何という弱虫です。戦場でお前の腕が切り落とされたらどうするつもりです。ハラキリをせよと命ぜられたら、どうするのです。

(参考:佐藤全弘(訳)新渡戸稲造著「武士道」:教文館)